第二次こおりやまユニバーサルデザイン推進指針　2024年度実施報告

１　指針の趣旨

本指針は、障がいの有無や年齢、言語、性別等の違いに関わらず、はじめから、できるだけ多くの人が使いやすい製品や建築・都市環境、サービスなどを提供するというユニバーサルデザインの考え方に基づいて、誰もが自分らしく、より快適な暮らしを送ることのできるユニバーサルデザイン社会を目指し、市民協働によりユニバーサルデザインのまちづくりを推進するため策定しています。

２　指針の位置付け・計画期間

本指針は、郡山市の最上位計画「郡山市まちづくり基本指針」の分野別個別計画であり、まちづくり基本指針に基づいて実施する様々な施策を、ユニバーサルデザインの観点から体系化し、取組みの方向性を示しています。

計画期間は、2018(平成30)年度から2025（令和７）年度までの8年間としています。計画の中間年に当たる2021（令和３）年度には、社会情勢の変化や新たな課題等を整理しさらなる推進を図るため、基本指標項目や目標値等の一部見直しを行いました。

３　指針の体系図

本指針は、基本目標「誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインのまち」の達成に向けて、３つの基本方針・８つの基本施策に基づきユニバーサルデザインのまちづくりを進めています。

４　基本施策の実施状況

各基本施策では、以下のような取り組みを実施します。

下表には、基本施策が前年度と比較してどのような状況かを示しています。

2024年度の基本施策の実績値は、８つの基本施策のうち６施策が目標値に近づいている又は超えています。

2025年度目標値を上回っているのは２施策です。（基本施策１、５）

基本施策1　 思いやりの心があふれるひとづくり　は、目標値に近づいている又は超えています。

①イベント、広報紙、パンフレット、ウェブサイト、ＳＮＳなどを活用した、ユニバーサルデザインの考え方や必要性の普及・啓発を図ります。

②講演会、出前講座、体が不自由な人などの疑似体験を通して、ユニバーサルデザインに取り組む人材育成に努めます。

③学校教育を通して、ユニバーサルデザインへの理解を深め、思いやりの心を育てます。

④ユニバーサルデザインの研修や情報提供等を通して、市職員及び公共施設を管理運営する職員の意識の醸成を図ります。

⑤ユニバーサルデザインの普及・啓発や実践に取り組む個人・団体等の支援に努めます。

基本施策２　多様性を認め、いのちと人権を尊重するひとづくり　は、横ばいです。

①いのちと人権の大切さに対する意識の醸成に努めます。

②人の多様性について、正しい理解の普及・啓発に努めます。

③高齢者や障がい者、外国出身者等との相互交流・理解の機会を創出します。

④「ヘルプマーク」「障がい者マーク」等、配慮が必要な方の表示に対する正しい理解の普及・啓発に努めます。

⑤「やさしい日本語」に対する正しい理解の普及・啓発に努めます。

基本施策３　誰もが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境　は、目標値に近づいている又は超えています。

①誰もが円滑にかつ安全・安心に移動できるよう、歩道の設置や拡幅、段差解消、電線類の地中化、カーブミラー、照明、防護柵、エレベーター等の整備に取り組みます。

②ノンステップバスやＵＤタクシーの導入、分かりやすい運行情報提供など、利用しやすい公共交通機関の取り組みを推進します。

③目的地までの案内や各種表示については、必要な情報の表示、多言語表記などに配慮し、見やすく分かりやすい表示に努めます。

④誰もが安全・安心に移動できるよう、関係機関と連携・協力して、交通安全・防犯対策に取り組みます。

基本施策４　誰もが利用しやすく安全・安心な施設 は、目標値に近づいている又は超えています。

①車いすの方やオストメイトの方に対応した設備や、ユニバーサルシート等を備えた多機能トイレの整備に取り組みます。

②案内板については、文字の大きさ、ふりがなの表記、配色、ピクトグラム、多言語表示、「やさしい日本語」などの表記、導線・連続性などを総合的に考慮した整備を行います。

③民間施設のユニバーサルデザイン化を促進します。

④公共施設については、駐車場や出入口等のバリアフリー化、防犯対策、くつろげる空間などに配慮した整備に取り組みます。

⑤ユニバーサルデザインの視点で公共施設の点検を行い、必要な改善に努めます。

⑥ユニバーサルデザインに配慮した施設等の情報収集・発信に努めます。

基本施策５　ＩＣＴを含めた多様な媒体を活用した誰にでも分かりやすい情報伝達　は、目標値に近づいている又は超えています。

①誰もが見やすい文字や配色、分かりやすい表現による情報発信をします。

②ＩＣＴをはじめ、新聞、テレビ、ラジオ、ＦＡＸ、印刷物等といった多様な媒体による情報伝達をします。

③ウェブサイトは、音声読み上げしやすいテキストデータでの作成や、自動翻訳のネイティブチェックなど、多様な情報の受け方に配慮します。

④多言語表示、「やさしい日本語」などを使用した情報伝達に努めます。

⑤文字（外国語含む）、手話、点字、音声など複数の知覚に訴える情報伝達に努めます。

⑥ＩＣＴの操作・活用方法を身につける講座の開催等、誰もが多様な媒体をとおして情報を使いこなせるよう支援します。

⑦Wi-Fiの利用環境を整備し、利用できる場所の情報を発信します。

基本施策６　利用者の立場に立ったサービスとおもてなし　は、目標値に近づいている又は超えています。

①接遇研修等により、市民の視点に立ち、おもてなしの精神にあふれる窓口サービスの提供に努めます。

②ＩＣＴを活用した案内や説明といった、誰もが利用しやすく分かりやすいサービスを提供します。

③外国出身者とのコミュニケーションを図るため、ガイドブックの作成のほか、多言語や「やさしい日本語」の使用に努めます。

④言語や年齢等を問わず分かりやすいピクトグラムの活用を推進します。

⑤コミュニケーション支援従事者（手話通訳者・要約筆記奉仕員）や外国語通訳者の確保・要請に努めます。

⑥音声コードを貼付した文書・封筒等の作成に努めます。

基本施策７　市民協働によるユニバーサルデザインの推進　は、横ばいです。

①各種計画の策定、事業の実施、サービスの提供、施設の建設・改修等の際は、計画段階から市民参画の機会を充実させます。

②こおりやまユニバーサルデザインサポーターと協働で、出前講座やイベント等でユニバーサルデザインの普及・啓発に取り組みます。

③専門的知識を有する個人や団体と連携して、ユニバーサルデザインの普及・啓発に取り組みます。

④ユニバーサルデザイン製品の調達・利用を促進します。

⑤ユニバーサルデザイン導入事例の情報共有に努めます。

基本施策８　災害時のユニバーサルデザインの推進 は、目標値に近づいている又は超えています。

①災害時に移動が困難な方を優先的に避難させるための体制を整備します。

②非常誘導灯、火災報知器、非常電話、避難用案内看板などを、誰もが安全かつ迅速に避難できるように整備します。

③ＩＣＴをはじめ、多様な媒体による分かりやすい災害情報を提供します。

④高齢者、障がい者、子ども、妊産婦、外国出身者などに配慮した避難所の運営に取り組みます。

⑤多言語、コミュニケーションボード、「やさしい日本語」による簡潔な文章など、外国出身者にも配慮した災害情報の提供に努めます。

⑥一般的な防災教育に加え、自力で避難するのが困難な方や配慮が必要な方に対する対応を学ぶ機会を充実します。

⑦防災訓練においては、高齢者、障がい者、妊産婦、外国出身者など災害時に配慮が必要な方が参加できるよう努めます。

５　基本施策の実施状況

基本施策１　思いやりの心があふれるひとづくり

主な取り組み内容

①イベント、広報紙、パンフレット、ウェブサイト、ＳＮＳなどを活用した、ユニバーサルデザインの考え方や必要性の普及・啓発を図ります。

②講演会、出前講座、体が不自由な人などの疑似体験を通して、ユニバーサルデザインに取り組む人材育成に努めます。

③学校教育を通して、ユニバーサルデザインへの理解を深め、思いやりの心を育てます。

④ユニバーサルデザインの研修や情報提供等を通して、市職員及び公共施設を管理運営する職員の意識の醸成を図ります。

⑤ユニバーサルデザインの普及・啓発や実践に取り組む個人・団体等の支援に努めます。

基本指標２項目いずれも前年度実績値を上回り、目標値に達しています。

ユニバーサルデザイン出前講座の参加人数 ユニバーサルデザインの出前講座の参加人数　633人

目標値500人

市民ボランティアであるユニバーサルデザインサポーターと協働で、車イスや視覚障がいなどの疑似体験を含めた出前講座を行い、ユニバーサルデザインの普及啓発を実施した。実施回数、参加人数とも、2023年度から増加した。

実施回数は14回、UD理解度は98％、UDサポーター参加者（のべ）は6人

担当：市民・NPO活動推進課

ユニバーサルデザインの啓発回数 出前講座、イベント等で啓発を実施した回数　23回

目標値16回

ユニバーサルデザインを実践できる人材の育成のため、情報伝達のUDを学ぶ「伝わりやすい文書のつくり方講習会」、色による情報伝達を学ぶ「親子で学ぶカラーユニバーサルデザイン講座」を実施したほか、主に市職員を対象として動画研修及び職場内のUDセルフ点検を実施し、意識啓発を図った。

出前講座実施回数は14回、セミナー等実施回数は3回（参加者合計のべ116人）、イベントへの出展は4回（こどもまつり、保健福祉ファミリーフェスタ、市民活動交流フェスタ、セーフコミュニティフェスタ）、職員向け動画研修、UDセルフ点検

担当：市民・NPO活動推進課

基本施策2　多様性を認め、いのちと人権を尊重するひとづくり

主な取り組み内容

①いのちと人権の大切さに対する意識の醸成に努めます。

②人の多様性について、正しい理解の普及・啓発に努めます。

③高齢者や障がい者、外国出身者等との相互交流・理解の機会を創出します。

④「ヘルプマーク」「障がい者マーク」等、配慮が必要な方の表示に対する正しい理解の普及・啓発に努めます。

⑤「やさしい日本語」に対する正しい理解の普及・啓発に努めます。

基本指標４項目のうち、１項目が前年度実績値を上回り、2項目が目標値に達しています。

ゲートキーパー養成研修・ゲートキーパーフォローアップ研修の参加者数は、前年度実績値を下回っていますが、目標値に達しています。

市国際交流協会との協働により実施する事業の参加者数 多文化共生の理解促進のために市と国際交流協会が協働で実施する事業の参加者数（動画再生数）　11,247人（回）

目標値1,500人(回)

市国際交流協会の事業参加者数については、事業実施回数、参加者数共に、例年通り実施できた。

市国際交流協会の事業参加者数：820人（前年度比-1人）

市と協会が連携して作成している多言語動画については、2024年度は子育てに関する情報について動画を作成し、YouTubeを通して外国人住民に対する生活情報及び健診の周知に寄与することができた。これまでに作成した計6本の動画の2024年度中の合計再生回数は2023年度に比べ大きく増加している。

生活情報動画再生回数は10,427回（前年度比+4,092回）

担当：ダイバーシティ推進課

自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）　19.6(2023年)

目標値13.4より減少させる

2022年と比較して2023年の自殺死亡率は上昇しており、2025年の目標値の達成が困難な状況にある。引き続き、子ども・若者支援等が必要である。

若年層を対象にゲートキーパー養成研修を実施し、専門学校・大学生向けのリーフレット配布、専門職による相談を実施している。国立精神・神経医療研究センターが運営するオンライン相談KOKOROBOを継続し、中学校でのSOSの出し方・受け取り方教室を継続実施。

SOSの出し方・受け取り方教室は32回、ゲートキーパー養成研修会は12回、自殺予防講演会は3回、こころの健康相談（医師・心理士）は39回、精神保健福祉士電話相談は51回

担当：保健・感染症課

【追加】ゲートキーパー養成研修・ゲートキーパーフォローアップ研修の参加者数　538人

目標値400人

若年者を対象とし高校・専門学校・大学でゲートキーパー養成研修を実施した。地域からの希望もあり、幅広い層に実施できた。回数及び人数は前年よりも減少したが、目標値は達成した。

ゲートキーパー研修会12回　参加者数538人

担当：保健・感染症課

【追加】性的マイノリティへの理解促進のための講座等による啓発人数　152人

目標値1,000人

「さんかく教室」での性的マイノリティに関する講座の他、LGBTQについて理解を深めるための講座や研修を2023年度から実施。「さんかく教室」利用者のうち、性的マイノリティに関する講座受講者は2023年度よりも減少した。

「さんかく教室」103人（受講者合計925人）、LGBTQ研修のべ49人（第１部講演会39人、第２部10人）

担当：ダイバーシティ推進課

基本施策３　誰もが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境

主な取り組み内容

①誰もが円滑にかつ安全・安心に移動できるよう、歩道の設置や拡幅、段差解消、電線類の地中化、カーブミラー、照明、防護柵、エレベーター等の整備に取り組みます。

②ノンステップバスやＵＤタクシーの導入、分かりやすい運行情報提供など、利用しやすい公共交通機関の取り組みを推進します。

③目的地までの案内や各種表示については、必要な情報の表示、多言語表記などに配慮し、見やすく分かりやすい表示に努めます。

④誰もが安全・安心に移動できるよう、関係機関と連携・協力して、交通安全・防犯対策に取り組みます。

基本指標４項目のうち、３項目が前年度実績値を上回り、1項目が目標値に達しています。

市内乗合タクシーの導入地区数は、前年度実績値と同数ですが、目標値に達しています。

市内バス路線の年間利用者数　市内を運行する路線バスの年間利用者数　438万人

目標値551万人

バス路線等の見直しや改善について、定期的に交通事業者及び地域と協議を行うとともに、路線バスに代わる交通手段の確保のため、乗合タクシーの導入を図っている。

総合都市交通戦略協議会開催回数は4回、地区懇談会開催回数は6回

担当：総合交通政策課

【追加】市内乗合タクシーの導入地区数 10地区

目標値10地区

路線バスが廃止された地域、運行が乏しい地域等における公共交通の確保を目的とし、デマンド型乗合タクシーを運行している。

担当：総合交通政策課

道路整備率（改良率）　67.56％

目標値70.07％

道路整備率（改良率）は微増している。誰もが安全で快適に移動できる環境を構築するため、計画的に生活道路の整備を実施している。

担当：道路保全課

【追加】通学路安全点検の実施箇所数（累計）/対策済箇所数（累計）　郡山市通学路安全プログラムに基づき関係機関と合同で安全点検を実施した箇所数／対策済箇所数　点検822箇所／対策済730箇所

目標値　点検906箇所　対策済720箇所 合同点検は、小・中学校から要請があった危険箇所数で実施し、安全対策の箇所数は、点検結果に基づき道路拡幅や交通安全施設の設置等の対策を行い、増加している。

担当：道路計画課、道路保全課

基本施策４　誰もが利用しやすく安全・安心な施設

主な取り組み内容

①車いすの方やオストメイトの方に対応した設備や、ユニバーサルシート等を備えた多機能トイレの整備に取り組みます。

②案内板については、文字の大きさ、ふりがなの表記、配色、ピクトグラム、多言語表示、「やさしい日本語」などの表記、導線・連続性などを総合的に考慮した整備を行います。

③民間施設のユニバーサルデザイン化を促進します。

④公共施設については、駐車場や出入口等のバリアフリー化、防犯対策、くつろげる空間などに配慮した整備に取り組みます。

⑤ユニバーサルデザインの視点で公共施設の点検を行い、必要な改善に努めます。

⑥ユニバーサルデザインに配慮した施設等の情報収集・発信に努めます。

基本指標４項目のうち、３項目が前年度実績値を上回り、１項目が目標値に達しています。

バリアフリートイレ設置数（累計）　オストメイトに対応したバリアフリートイレの設置数　44ヶ所

目標値42ヶ所

オストメイト(人工肛門、人工膀胱保持者)に対応したバリアフリートイレ設置数(累計)は新築の郡山市歴史情報博物館で新たに２箇所整備された。既存の市公共施設においては、オストメイトトイレとするための広さを確保できないことで改修につながっていない。

担当：障がい福祉課

おもいやり駐車場利用制度協力施設数（累計）　165施設

目標値176施設

福島県が実施するおもいやり駐車場利用制度協力施設は、市公共施設35施設（前年度と変更なし）、その他国・県施設及び民間施設130施設（前年度から国施設1件増、民間施設2件減）となった。

担当：市民・NPO活動推進課

【追加】赤ちゃんニコニコステーション事業登録施設数（累計）　おむつ替えや授乳が可能な施設、キッズスペースのある施設の合計　187施設

目標値200施設

民間施設で6施設の新規登録があった。うち、3施設はベビーファースト環境整備補助金を活用した。市公共施設は、3施設増え、2施設減少した。

担当：こども総務企画課

【追加】公園トイレのＵＤ率　洋式化、多機能化などＵＤ化された市の公園トイレ整備率　89.2％

目標値100%

老朽化したトイレのユニバーサルデザイン化を進め、施設利用者の利便性の向上を図った。

整備の前倒し実施　トイレ改修2箇所（西ノ内公園、名倉公園）

担当：公園緑地課

基本施策５　ＩＣＴを含めた多様な媒体を活用した誰にでも分かりやすい情報伝達

主な取り組み内容

①誰もが見やすい文字や配色、分かりやすい表現による情報発信をします。

②ＩＣＴをはじめ、新聞、テレビ、ラジオ、ＦＡＸ、印刷物等といった多様な媒体による情報伝達をします。

③ウェブサイトは、音声読み上げしやすいテキストデータでの作成や、自動翻訳のネイティブチェックなど、多様な情報の受け方に配慮します。

④多言語表示、「やさしい日本語」などを使用した情報伝達に努めます。

⑤文字（外国語含む）、手話、点字、音声など複数の知覚に訴える情報伝達に努めます。

⑥ＩＣＴの操作・活用方法を身につける講座の開催等、誰もが多様な媒体をとおして情報を使いこなせるよう支援します。

⑦Wi-Fiの利用環境を整備し、利用できる場所の情報を発信します。

基本指標２項目いずれも前年度実績値を上回り、目標値に達しています。

【追加】ＩＣＴ活用のための市民等対象の講習会受講者数 スマートフォンやオンライン会議システム等ＩＣＴ活用のための市民等向けの講座の受講者数　553人

目標値220人

町内会活動のDXや高齢者等のICT活用を推進するため、各部局において事業者との協働により操作体験講座等を開催した。

町内会DX推進実証事業（市民・NPO活動推進課）は86人、スマートシニア応援事業（健康長寿課）は300人、中央公民館定期講座（中央公民館）は167人

担当：各課（市民・ＮＰＯ活動推進課取りまとめ）

【追加】「わかりやすい情報発信ができている」と感じる人の割合　市民アンケートにより「わかりやすい情報発信ができている」と感じる人の割合（広報紙、ＳＮＳ、ウェブサイト）　79.8％

目標値75.0％

2024年度のまちづくりネットモニターで、「市政広報について」のアンケートを実施した。「広報こおりやま」、「市ウェブサイト」のそれぞれで分かりやすさが、平均79.8％であった。今後も継続して同様の調査を実施し向上を図る。

担当：広聴広報課

基本施策６　利用者の立場に立ったサービスとおもてなし

主な取り組み内容

①接遇研修等により、市民の視点に立ち、おもてなしの精神にあふれる窓口サービスの提供に努めます。

②ＩＣＴを活用した案内や説明といった、誰もが利用しやすく分かりやすいサービスを提供します。

③外国出身者とのコミュニケーションを図るため、ガイドブックの作成のほか、多言語や「やさしい日本語」の使用に努めます。

④言語や年齢等を問わず分かりやすいピクトグラムの活用を推進します。

⑤コミュニケーション支援従事者（手話通訳者・要約筆記奉仕員）や外国語通訳者の確保・要請に努めます。

⑥音声コードを貼付した文書・封筒等の作成に努めます。

基本指標５項目のうち、２項目が前年度実績値を上回り、２項目が目標値に達しています。

観光案内所窓口利用者数は、前年度実績値を下回っていますが、目標値に達しています。

コミュニケーション支援従事者の登録者数 手話通訳者・要約筆記者の合計（専任手話通訳者３人含む）63人

目標値80人

手話通訳者及び要約筆記者の人材育成を図りながら派遣による通訳等を提供している。

手話通訳者40名、要約筆記者23名

手話奉仕員養成講座実施回数は35回　受講者は55名

手話通訳者養成講座実施回数は22回　受講者は23名

要約筆記者養成講座実施回数は14回　受講者は 5名

　(要約筆記養成講座は指定管理者委託)

担当：障がい福祉課

【追加】手話通訳者派遣件数／要約筆記者派遣件数　手話通訳者派遣3,306件／要約筆記者82件

目標値　手話通訳者派遣2,800件／要約筆記者派遣50件

医療機関の受診や就業、学校関係等の社会生活上における派遣ニーズが多い状況が続き、派遣件数は目標値を上回っている。

手話通訳派遣件数は3,306件、要約筆記派遣件数は82件、遠隔手話サービス利用は1,145件(うち遠隔通訳件数342件)

担当：障がい福祉課

【追加】音声コード付きの市民向け印刷物の作成件数

音声コードによる音声読み上げ機能を付した市民向けの文書（通知、パンフレット等）の作成件数８件

目標値10件

各種計画は数年おきに策定となるため、主に冊子の件数変動がある。明確に障がい者のみを対象とした文書を除き、通常の通知文書に音声コード活用はあまり定着していない。

担当：各課（障がい福祉課取りまとめ）

観光案内所窓口利用者数 郡山駅構内にある観光案内所の窓口利用者数　20,565人

目標値20,000人

2023年3月のリニューアルオープンにより、各種媒体等でも取り上げられ、2023年度は大幅増となったが、2024年度については、過去平均に近い利用者数となった。

担当：観光政策課

【追加】多言語（外国語）またはやさしい日本語により制作した情報媒体数　5件

目標値6件

2021～2024年度において、外国人住民アンケートは実施していないため、目標値には達していない。

多言語表示の情報媒体数は5件（リビングガイド、多言語防災マップ、市ウェブサイト、生活情報動画、多言語音声翻訳システム）

担当：ダイバーシティ推進課

基本施策７　市民協働によるユニバーサルデザインの推進

主な取り組み内容

①各種計画の策定、事業の実施、サービスの提供、施設の建設・改修等の際は、計画段階から市民参画の機会を充実させます。

②こおりやまユニバーサルデザインサポーターと協働で、出前講座やイベント等でユニバーサルデザインの普及・啓発に取り組みます。

③専門的知識を有する個人や団体と連携して、ユニバーサルデザインの普及・啓発に取り組みます。

④ユニバーサルデザイン製品の調達・利用を促進します。

⑤ユニバーサルデザイン導入事例の情報共有に努めます。

基本指標２項目のうち、１項目が前年度実績値を上回り、目標値に達しています。

こおりやまユニバーサルデザインサポーターとの啓発回数　ボランティアと協働で実施した講座・イベント等の啓発活動の回数３回

目標値10回

こおりやまユニバーサルデザインサポーターが出前講座やイベントにボランティアとして参加したほか、セミナーへの参加を呼びかけ、協働によりユニバーサルデザインの普及啓発を行った。

UDサポーター登録数は27人　参加のべ人数は6人

担当：市民・NPO活動推進課

ココナビこおりやま対応件数　市民等から投稿されたココナビこおりやまへの対応件数 620件

目標値550件

令和5（2023）年2月に専用アプリ運用終了の周知を行ったため、一時的に専用アプリへの投稿が減少したが増加に転じた。

「道路」に関する投稿が最も多く、ココナビこおりやまの活用は、市民との協働のまちづくりにつながっている。

担当：広聴広報課

基本施策８　災害時のユニバーサルデザインの推進

主な取り組み内容

①災害時に移動が困難な方を優先的に避難させるための体制を整備します。

②非常誘導灯、火災報知器、非常電話、避難用案内看板などを、誰もが安全かつ迅速に避難できるように整備します。

③ＩＣＴをはじめ、多様な媒体による分かりやすい災害情報を提供します。

④高齢者、障がい者、子ども、妊産婦、外国出身者などに配慮した避難所の運営に取り組みます。

⑤多言語、コミュニケーションボード、「やさしい日本語」による簡潔な文章など、外国出身者にも配慮した災害情報の提供に努めます。

⑥一般的な防災教育に加え、自力で避難するのが困難な方や配慮が必要な方に対する対応を学ぶ機会を充実します。

⑦防災訓練においては、高齢者、障がい者、妊産婦、外国出身者など災害時に配慮が必要な方が参加できるよう努めます。

基本指標２項目のうち、２項目が前年度実績値を上回り、１項目が目標値に達しています。

市民防災リーダー養成数（累計） 地域において実践的な防災活動のできる市民防災リーダーの養成者のべ人数　964人

目標値1,100人

各地区の防災体制を強化するため、自主的に防災活動を行う自主防災組織に対する支援を行い、地域における防災力向上に努めた。

市民防災リーダー養成事業実施回数は3回、補助金の交付団体は33団体

担当：防災危機管理課

【追加】避難場所表示看板の整備数（整備率）（累計）　避難場所表示看板の整備数386件　整備率87.1%

目標値　整備370件　整備率85%

防災力の向上に向け、避難場所表示看板の整備促進を図った。2023年度の整備率算出に誤りがあったため、修正した。2023年度の整備率は、89.3％から82.6％に修正。

担当：防災危機管理課

全体指標

計画全体の進捗状況を把握するため、毎年実施する市民意識調査のうちユニバーサルデザインに関する項目を全体指標としています。

【市民意識調査】無作為抽出した郡山市内在住の満18歳以上の男女を対象に、まちづくりの満足度や取組施策の重要度などについてアンケートを行う。

・実施期間は2024年5月30日から6月14日

・調査地域は郡山市全域

・調査標本数は1,500人（男性750人、女性750人）

・有効回収数は668件

全体指標２項目いずれも前年度実績値を上回っています。

８つの基本施策の実績値は６項目が目標値に近づいていますが、市民意識調査ではユニバーサルデザインに対する満足度・重要度とも目標値に達しておらず、市民の皆さんの意識とは隔たりがあるのが現状です。

ユニバーサルデザインのまちづくりに関する満足度　67.6点

目標値　70.0点

【追加】ユニバーサルデザインのまちづくりに関する重要度 「ユニバーサルデザイン」が重要と回答した市民の割合 3.9％

目標値5.0%

（参考）2024年度市民意識調査より：施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

ユニバーサルデザインは、重要度・満足度とも低いＣの領域にある。